

V306a X線分光撮像衛星 XRISM の科学運用準備の現状 (2)

米山友景 (ISAS/JAXA), 田代信, 寺田幸功 (埼大, ISAS/JAXA), 高橋弘充 (広大), 信川正順 (奈良教育大), 水野恒史 (広大), 宇野伸一郎 (日本福祉大), 久保田あや (芝浦工大), 中澤知洋 (名大), 渡辺伸, 飯塚亮, 佐藤理江, 林克洋, 吉田鉄生 (ISAS/JAXA), Chris Baluta (NASA/GSFC), 海老沢研 (ISAS/JAXA), 江口智士 (福岡大), 深澤泰司 (広大), 橋口葵 (奈良女大), 勝田哲 (埼大), 北口貴雄 (理研), 小高裕和 (東大), 大野雅功 (JAXA), 太田直美 (奈良女大), 阪間美南 (埼大), 阪本菜月 (広大), 志達めぐみ (愛大), 塩入匠 (埼大), 丹波翼 (東大), 谷本敦 (鹿大), 寺島雄一 (愛大), 坪井陽子 (中央大), 内田和海 (ISAS/JAXA), 内田悠介 (東理大), 内山秀樹 (静大), 山田智史 (理研), 山内茂雄 (奈良女大)

X線分光撮像衛星 (XRISM) プロジェクトは、2023年度の打ち上げに向けて開発・運用準備を進めている。我々科学運用チームは、バス系やミッション機器の開発チームや衛星運用チームとは独立に、軌道上での科学運用および観測によって得られる科学成果を最大限に引き出すための準備を行っている。現在の主な活動は、観測提案システム、観測スケジューリングなどの観測計画プロセスの検証、観測情報などを収集するデータベースの構築、衛星テレメトリの高次データ処理とその即時解析やアーカイブのためのシステムの検証および運用試験、軌道上較正観測のソフトウェア開発や較正観測計画の補助、ユーザーサポート・ヘルプデスク活動計画の構築などである。直近では、衛星熱真空試験などで得られたテレメトリデータを用い、テレメトリ取得から観測データのパイプライン処理に至るまでの地上システム全体の end-to-end 試験を実施している。これらの活動は、検出器の開発チーム、NASA/GSFC や ESAC の地上ソフトウェアチームやユーザーサポートメンバーと連携して進めている。本講演では、打ち上げに向けて最終段階にある科学運用準備の現状と今後について報告する。